

## 世界の核被害者つなげよう

### ビキニデー 高知集会



左2番目からエヴェレン、笹島、竹峰さん(県民文化ホール・グリーン)

「ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験による高知県内の被害者を支援し被害者の実相を発信するために5月5日から7日まで県内各地を会場に「2023ビキニデーin高知」が開催されました。県内開催は3回目。

7日、高知市内で開かれた全体集会ではジャーナリストの笹島康仁さん、竹峰誠一郎・明星大教授、マーシャル諸島核問題委員会のエヴェレン・レレボウ・シエアリックさんが報告。

竹峰教授は核被害を「ビキニにとどめずマーシャル、太平洋の被害として捉え、核被害は人権問題、地球環境問題であり世界の幅広い人たちがつながることの重要性を強調。「核兵器禁止条約の批准を日本政府に求めるだけでは不十分。締約国会議を高知の運動としていかにすることを本気で考えてほしい。核被害者の人権救済を申し立てていけるべきだ」と指摘しました。

エヴェレンさんは被ばく被害救済を訴えてきた母親を紹介しながら「こ

の苦しみを二度と繰り返さないでほしい。高知でビキニデーが開かれていることに驚いた。マーシャルの人たちに伝えたい」と述べました。

また、詩人のアーサー・ビナードさんが講演。桜木敏幸・高知県原爆被害者の会会長、第五福竜丸元船員の小笠原勝さん、下本節子・ビキニ被ばく船員訴訟原告団長が発言しました。高知県健康政策部から挨拶がありました。

集會に参加した50代男性は「この問題が、高知だけでなくグローバルに世界と繋がっていることを実感できた。核兵器禁止条約の大切さを新たに発見させてもらった」と話しました。